

埼玉県の予算

巨額の予算を支える3つの仕組み

予算の全体像：3つの「財布」

一般会計

約2兆4,349億円

教育、警察、道路、福祉など、県の基本的な仕事を支えるメインの財布です。

特別会計

約9,812億円

競馬事業や特定の貸付など、特定の目的のために管理される財布です。

公営企業会計

約5,108億円

水道、下水道、病院など県が「経営」する事業の独立した財布です。

歳入：お金はどこから来る？

県税

9,052億円

最大の収入源。県民の皆様から頂く税金や消費税、企業の税金など、自分たちの力で集めるお金です。

国庫支出金

1,950億円

国が特定の目的のために補助するお金。国と協力して事業を進めます。

県債

1,868億円

将来の投資のための「借金」。これからの世代のために施設などを作ります。

ポイント：県税だけでは足りない分を、国からの支援や将来の借金で補っています。




歳出：お金は何に使われる？

項目	主な予算額（一般会計）	主な使い道
教育費	約5,989億円	先生の給料、高校の設備、ICT環境整備
民生費	約5,009億円	子育て支援、高齢者福祉、障害者支援
諸支出金	約4,319億円	市町村への交付金（地域の窓口を支える）
警察・防災	約1,500億円以上	パトロール、災害に強い道路や橋の整備

今年度のミッション

「日本一暮らしやすい埼玉」の総仕上げ

令和8年度は、5か年計画の最終年度。
3つの大きな目標を掲げています。

-  命を守る：災害に強く、犯罪の少ない街へ
-  居場所を作る：誰もが輝ける多様な社会
-  変化を起こす：デジタル(DX)で行政を便利に



直面する収支不足の「壁」

身近な例でたとえると...

「月のお小遣いが1万円だとします。

でも、どうしても必要なスマホ代や
交通費、昼食代など計算したら
1万2,000円必要です。

足りない2,000円（=1,558億円）は、
貯金を切り崩したりして何とか
凌ぎます。

「このまま続けられるのかな？」



収支不足：1,558億円

- 物価高騰でインフラ整備費が上昇
- 高齢化で社会保障費が増え続けている

教育への「今」を支える投資

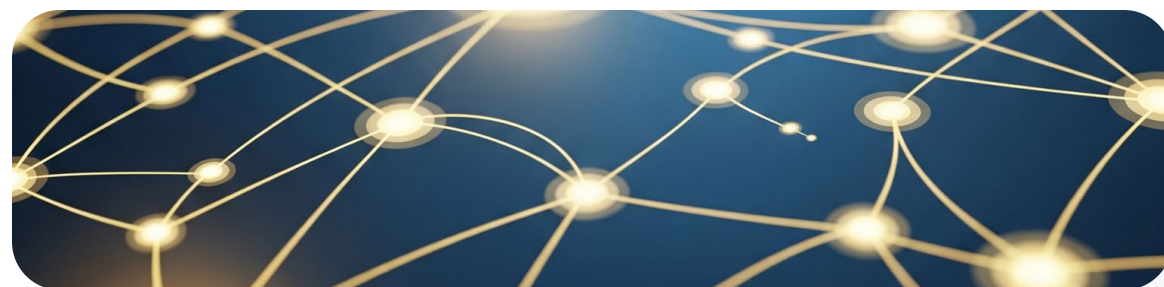
教育とDXへの集中投資

高等教育の学びを止めないために、予算はこう使われています。

- ・ 私立・公立高校の授業料軽減支援
- ・ 1人1台タブレット、高速通信網の維持
- ・ 先生の働き方改革と、質の高い授業の実現

デジタル化の目的

1,558億円の不足を補うために、役所の仕事を徹底的に効率化し、その分を教育や福祉に回す「生存戦略」です。



「想定外」に負けない街づくり

24h

365日の安心を支える

強靱な県土を作る

能登半島地震などの教訓を活かし、
インフラ整備を強化します。

- ・古い橋や道路の耐震補強
- ・激甚化する大雨に備えた調節池の整備
- ・地域の防災リーダーの育成支援

インフラ整備は「一度作れば終わり」ではなく
メンテナンスに莫大な予算が必要です。

これから私たちが向き合う課題



人口減少・人手不足

医療、介護、建設などの現場で働く人が足りない。DXによる省力化が急務です。



社会保障の持続性

高齢化により増え続ける医療・介護費。支え合いの仕組みを守るための施策が必要です。



物価とコストの闘い

材料費の高騰は、県の公共事業すべてを圧迫。限られた財源の優先順位が問われます。

まとめ：みなさんと共に考えます



「今使うお金」と「将来の借金」のバランス：

「今」のために行う借金を、将来の私たちはどれくらい背負えるのでしょうか？



限られた財源の優先順位：

「すべてを完璧に」とはまいりません。教育、福祉、防災、どれに最も重きを置くべきでしょうか？



私たちは「選ぶ側」の主役：

予算は私たちの意思表示が反映するべきです。どんな埼玉県に住みたいか、共に考えましょう。

3.9兆円の「設計図」は、私たちの手の中にあります。